

## インド向け日本産食品輸入規制が2月26日に解除―農水省

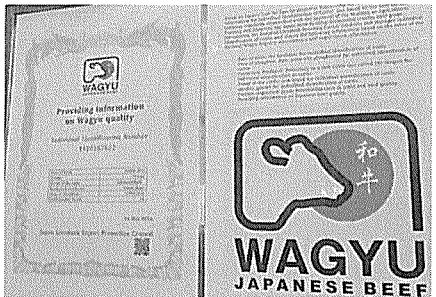
農水省は9日、福島原発事故発生に伴うインド向け日本産食品輸入規制が2月26日に解除されたと公表した。

福島原発事故の発生に伴い、インド向けに輸出される食品については、これまですべての食品に対し、インド輸入時に放射性物質に関する全ロット検査が求められていたが、9日に同規制を解除したとの連絡がインド政府からあった。それによると、同検査はことしの2月26日から廃止されている。これにより原発事故以降、インドにおいて追加的に取られていた輸入規制すべてが撤廃された。

## MCが和食産業展で「WAGYU SAMURAI」を訴求



ミートコンパニオン(阿部昌史社長、右写真・右)は、11日まで幕張メッセで開催されている「和食産業展2016」に出展している。同社グループは、本物の日本の和牛を、今後期待される海外市場に向けて輸出促進し、日本産食肉ブランドの認知度向上とブランドの確立に向け、すでに埼玉県和光市にあるグループの集荷基地である食肉センター(株)アグリズ・ワン)において、タイ、ミャンマー、マカオ、ベトナムに向けて輸出施設認可を取得。また、協力会社の協力のもと、米国、フィリピン、香港、シンガポールにも輸出可能な環境を整えている。



初出展となる今回は、輸出用ブランド「WAGYU SAMURAI」を訴求し、和牛のサーロイン、切り落とし、カタロース、シタマ、トモサンカク、カイノミ、上バラ、フランクなど、さまざまな部位を展示。すき焼きなどに代表されるように、和食の中でもとくに人気が高く、ブランド力のある和牛について、海外からの来場者らに向けて強くアピールしている。さらに和牛の切り落としを鉄板で焼き、試食用として来場者に提供。インバウンドなども含めて需要が好調な和食のさらなる需要喚起に注力している。

また現在、牛肉を輸出する際には、誕生日、性別、品種、産地、と畜日、格付などに関する証明書を要望に応じて各団体などから別々に集める必要がある。それに対して日本畜産物輸出促進協議会(事務局・中央畜産会)では、さらなる輸出の活性化に向け、それを一本化して一つの証明書とすることを目ざしている。今回、ミートコンパニオンではその証明書のサンプル(左写真)を作成し、ブースに掲示。「多くの質問をいただいている」(阿部社長)と大きな注目を集めており、年内にも実用化が期待されるところだ。